CASIO

B-mode で Linux を使う

目次

はじめに
1. B-mode（Linux モード）の操作方法
2. B-mode（Linux モード）の基本操作
3. 再セットアップについて

本書は、MPC-216XL シリーズの B-mode での操作について説明しております。
B-mode での操作をする前に必ずお読みいただき、ご活用お願いいたします。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。
Midori は、Transmeta Corporation の米国およびその他の国における登録商標 です。
Red Hat は、Red Hat,Inc. の登録商標です。
Netscape,Netscape Navigator,Netscape の N ロゴおよび操舵輪のロゴは、
Netscape Communications Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
X と X Window System は、X Consortium Inc. の登録商標です。

はじめに

「Midori Linux（Linux2.4系）」をベースにカシオにて開発した環境下で稼働するこのB-modeアプリ領域は、約400MBありこの内システムで約200MBを使用します。
「Midori Linux」の「Midori」という名前の由来は日本語の「緑」です。これは［CRUSOE CPU］の低消費力と、より環境への影響が少ないコンピュータシステムに重点を置く姿勢を反映したものです。また「Midori」は、カーネルおよび基本コマンドを軽量化し起動性能の向上を計っています。

重要！
B-modeアプリは、オープンソース理念にもとづくフリーソフトウエアを基本にしています。
そのため、B-modeのMidori Linuxを含むすべてのソフトウエアおよびお客様がインストールされた ソフトウエアは、弊社でのサポート対象外となります。
あらかじめ、ご承知おきください。

注意！
FROMカードからのBOOT等には対応しておりません。

B-modeのソース公開については、CASSIOPEIA FIVAホームページ（http://www.casio.co.jp/mpc）にてご覧頂けます。

❑制約事項について

・スワップ域について

B-modeではスワップ域を確保していないため、同時に複数のアプリケーションを実行しないでください。多くのアプリケーションを同時に実行したり、メモリを多く使用するアプリケーションを実行すると、メモリの不足から「異常終了」の原因となります。

・ウインドウ配置について

ウインドウマネージャのウインドウ配置はスクリーンの中央に限定されていますので、複数のウインドウが同じ位置に重なる場合が起こります。配置後の位置調整はマウス等で行えますが、メニューウインドウから同じアプリケーションを連続して起動する場合には、2重起動に注意してください。

・フォントについて

各種のフォントを使用しているため、表示するフォントにより「¥」と「＼」が変わります。

❑バッテリ警告について

バッテリ容量が低下すると、警告画面が15分置きに表示されます。この場合には、AC電源を接続しご使用ください。

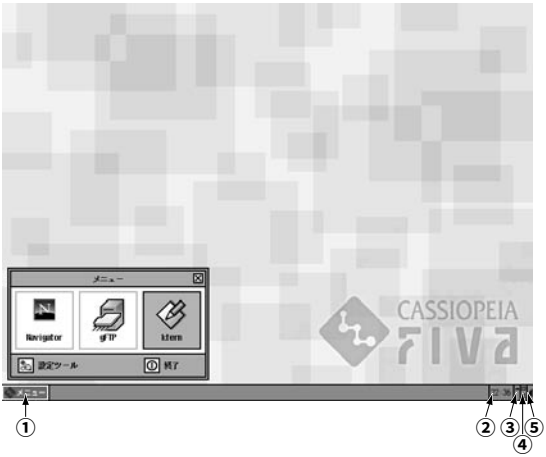
❑使用可能なインターフェース／デバイス

・USBインターフェース：　USBホイールマウス
・PCMCIA/CFカードスロット：　ATAフラッシュカード
・内蔵LANインターフェース：　10BASE-T/100BASE-TX
*内蔵モデム等、他のデバイスの使用は出来ません。

１．B-mode（Linuxモード）の操作方法

手順

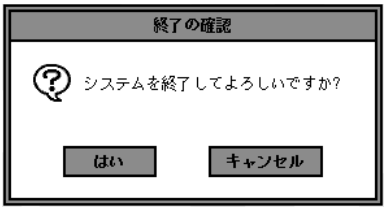
１．本機を電源OFF状態から「ソフトスイッチ」をMODE Bにして電源を入れ、立ち上げます。メニュー画面が表示され、登録されているソフトウエアを表示しますのでアプリの選択を行います。
この状態で何も操作しないと、一定時間後にスクリーンセーバー（LCD OFF）になります。（スティック操作をすれば戻ります）。



①クリックすると、「メニューウインドウ」が表示されます。
②バッテリ残量と時刻表示の切替を行います。
③クリックすると、タスクバーを画面の上部←→下部に移動できます。
④クリックするとタスクバーが表示されたり隠れたりします。
⑤クリックするとタスクバーが左端に隠れ、右矢印マークだけが表示されます。

［終了］をクリックすると、次の手順２．へいきます。
工場出荷時の初期状態では、メニュー画面の３つのアプリケーション（Netscape,gFTP,Kterm）が搭載されています。
Netscape → 手順３へ、gFTP → 手順４へ、Kterm → 手順５へ

２．「終了の確認画面」から、[はい]をクリックすると終了となり、電源がOFFされます。

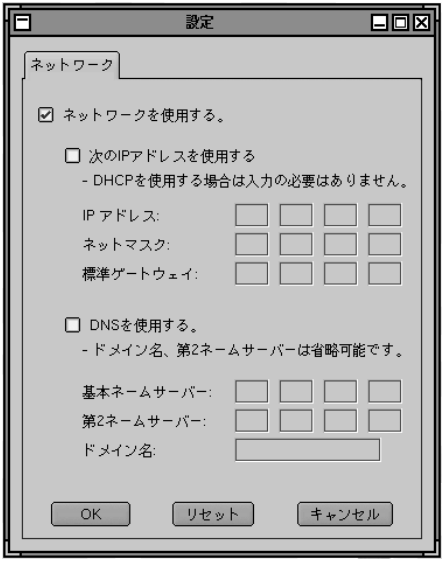


Windows XPで起動するには、電源OFF状態からソフトスイッチをA-modeにし起動します。

Netscape,gFTPを使用するには、「メニューウインドウ」の［設定ツール］からネットワークの設定が必要です。

ネットワーク設定　について

本機でネットワークを使用する場合は、□ネットワークを使用するをチェックします。



次の IP アドレスを使用する

ネットワーク上で、DHCPサーバーが稼働している場合は、チェックする必要はありません。

DNS を使用する

DNSサーバーがネットワーク上にある場合に、ここをチェックします。

処理取消は、キャンセルをクリックします。また、リセットで入力内容を消去し、再入力が可能です。
設定確認後、OKをクリックしネットワークへの接続が完了します。再起動後、ネットワークへの接続ができます。

注意！

- LAN ケーブルを電源 ON の状態で接続した場合は、「再起動」が必要です。
- インターネットとの接続でプロキシサーバーを中継している場合、NetscapeやgFTPでは起動後、次のように「プロキシ設定」を行ってください。

Netscape：メニューバーの「編集」→「設定」→「詳細」のボタン→「プロキシ」で設定。
次回起動時に、Netscapeのアカウントの有効化の画面が出ますので、「有効化」を選んで登録、または「キャンセル」で登録を止める選択をします。
gFTP：メニューバーの「FTP」→「オプション .....」→「FTP プロキシ」か「HTTP プロキシ」で設定。

３．Netscape　について

Linux 用の「Netscape」が起動されます（Netscape Navigator ver.6.1）。

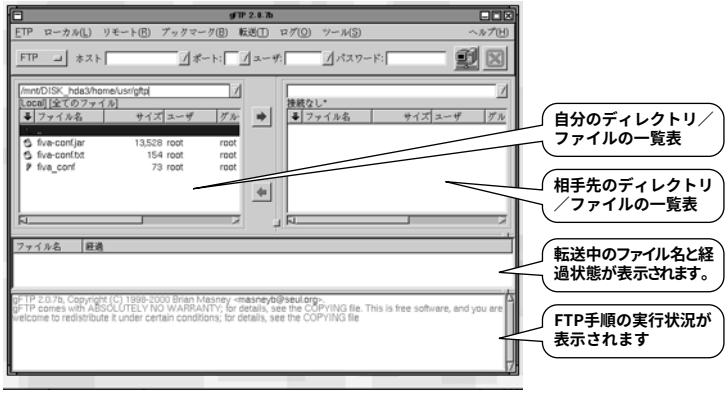
画面の印刷はできません。

初めて使用する場合、インターネットでNetscape社と繋がっていないと次の警告メッセージ「activation.netscape.com」が表示されますが、OK をクリックしてください。

詳細は、ヘルプおよびネットスケープ社のホームページ（http://home.netscape.com/ja/）を参照してください。

４．gFTP　について

ネットワークにつながる複数のコンピュータ間で、ファイルの転送を行えます（gFTP ver.2.0.7b）。



「ホスト」には接続先ホストアドレス、「ユーザ」には接続先ホストのユーザーアカウント、「パスワード」にはユーザーアカウントのパスワードを入力します。
入力後、コンピュータアイコンをクリックすれば、相手先との接続が始まります。
ファイル転送は、転送するディレクトリ／ファイル名を選択して、次の操作で開始します。

- **相手先にアップロードは、青矢印ボタンを押す。**
- **相手先からのダウンロードは、赤矢印ボタンを押す。**

IIS サーバーと接続する場合は、サーバーの設定が「UNIX」モードになっている必要があります。

５．Kterm　について

ウインドウが起動され、コマンド入力（/bin,/usr/bin を参照）が可能となります。

[使用例（お客様によるソフトウエアインストール時)]

１．他の Linux コンピュータでプログラムをコンパイルし、tar.gz形式に オブジェクトがあるものとします（コンパイルしたコンピュータの OS や library のバージョンが本機と異なると、正常に動作しない原 因となります)。
仮に、このファイル名を prog.tar.gz とします。

２．ファイルをダウンロードするディレクトリを作成します。
mkdir prog_dir
kterm を起動直後は、常に home ディレクトリにいます。

３．Netscape や gFTP で、ファイルを prog_dir にダウンロードします。

４．ディレクトリを prog_dir に移動して、ファイルを解凍します。
cd prog_dir
gunzip prog.tar.gz
tar -xvf prog.tar

５．解凍によりプログラムに戻りますので、実行が出来ます。

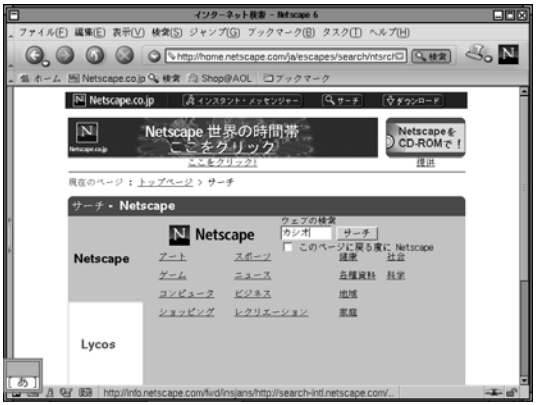
参考！
- **df　　ディスク容量を表示します（B モードのディスク領域は /dev/hda3 です)。**
- **ls　　ファイルの一覧を表示します。**
- **cd　　ディレクトリを移動します。**
- **pwd　カレントディレクトリを表示します。**

注意！
- **プログラムをコンパイルするマシンのOSやライブラリのバージョンが本機と異なる場合、正常に動作しない場合があります。**
- **kterm中のシェルは特権ユーザーで動作しますので、操作時には充分気をつけてください。**

2. B-mode（Linux モード）の基本操作

❑日本語入力の方法

日本語入力は、「Canna」および「Kinput2」によって動作します。
下の図は、Netscape 画面から「カシオ」と入力した例です。画面左下に表示されている［ あ ］は、「かな漢字変換」モードが起動されていることを示します。



かな漢字変換は、Shift + スペース で起動します。入力された文字列は、スペース で漢字変換され、Enter で文字列の確定となります。

かな漢字変換に使用する主なキーとその意味	
Shift ＋ スペース	日本語入力の開始／終了
Shift ＋ CAPS	ローマ字入力と英字入力を切り替えます
スペース	変換（次候補） 2回押すと［一覧表示］となり、←→で候補を選択することができます。
Shift ＋ →	文節伸長
Shift ＋ ←	文節短縮
→	文節前進
←	文節後退
↑	前候補（字種変更）
↓	次候補（字種変更）
Enter	変換確定
Backspace	カーソルの前の文字削除 また、「字種変更／文字変換」を解除することができます。
Ctrl ＋ L	全角英小文字に変換
Ctrl ＋ U	全角英大文字に変換
Ctrl ＋ G	操作の取消
Home	特殊文字入力、単語登録、環境設定
Insert	記号入力ウインドウ　表示／終了

Netscape で日本語入力する場合は、一覧表示の仮確定が入力フィールドに反映されません。

3．再セットアップについて

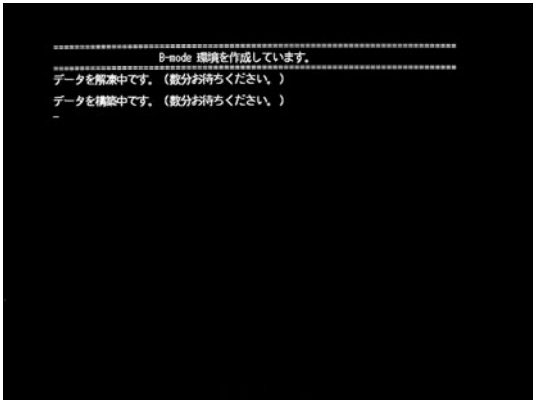
取扱説明書 116 ページの手順 1．より、説明します。

手順

1．リカバリの処理選択を行います。

B-modeアプリ領域のリカバリでは、
B を入力します。

2．Recovery-CD より、B-mode 領域へ各種ソフトをインストールします。



3．インストールが終了すると、自動的に本機の電源が切れます。
B-mode 領域（Linux モード）を使用するには、本機側面にある「ソフトスイッチ」を MODE B にして本機の電源を入れることで可能になります。

注意！

- リカバリを実行すると、B-mode 領域に保存していたすべての情報が失われます。重要なデータについては、日頃からデータのバックアップ（複製）をとり、本機とは別に保存しておくよう心がけてください。
- リカバリを行うときには、必ず本機に AC アダプタを接続して作業してください。リカバリ作業の途中でバッテリ容量がなくなると、作業を初めからやり直す必要があります。

謝辞

Linuxを支える全ての方々に感謝を申し上げます。

Linux創設者 Linus Torvalds様、

世界中のLinux開発者の皆様、X Free86開発者の皆様、Linuxドキュメントを整 備されているLinux Document Project参加の皆様、

日本語環境の開発をされているProject Japanese Extensionsを始めとする多くの国内開発者の皆様、

日本語ドキュメントの整備をされているJF Project,JM Project,X Japanese Document Projectを始めとする多くの参画されている皆様、

Red Hat Linuxを開発されました皆様、

厚く御礼を申し上げます。

本プロダクトは、Linuxを開発された方々の貴重な成果を利用しております。

2001年11月　　カシオ計算機株式会社

B-mode で Linux を使う（品番：MPC-216XL）

カシオ計算機株式会社
本社　〒151-8543 東京都渋谷区本町 1-6-2
システム事業部　〒207-8501 東京都東大和市桜が丘 2-229

HA-5795-63